



KENMEI ACADEMY

2013年度 学校評価

- I 幼稚園自己評価の結果の報告書
- II 小学校自己評価の結果の報告書
- III 中学高等学校自己評価の結果の報告書
- IV 学校関係者評価

学校法人 賢明学院

平成 25 年度 自己評価の結果について

学校法人賢明学院 賢明学院幼稚園

1、本園の教育目標

豊かな心、たくましく生きる人間性の基礎を育てる。

カトリック精神に基づいた教育によって、神と人々の前で誠実に生き人間味豊かな人格を育てることを目標にする。子どもたち一人ひとりの個性を大切に、子どもたちの持つ可能性を最大限に引き出し、愛する心、祈る心、感謝する心を養い、お互いの気持ちを大切にできる子どもたちの育成を目指す。

2、本年度、重点的に取り組む目標・計画

あふれる愛 ー保護者とともにー

- *子どもたちがありのままの自分を受け入れられていると感じ、安心し、身近な人と信頼関係をもって過ごすことができるように努める。
- *保護者にも、ありのままのよいことを伝えながら、子どもたちを本当に大切にすること、子どもにとって必要な愛情とはどのようなものなのかを伝えていく。
- *子どもたちをはじめすべての人への厳を大切にできるように関わっていく。

3、評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目・目標	取り組み状況
1 保育の計画性 保育内容及び指導の在り方等を精査し、指導計画を策定することによって教育内容の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none">・子どもが主体であるという意識を深め、カリキュラムを見直す。また、行事一つひとつにねらいをもちながら進めていく。・毎日の終礼で、子どもの状態がわかるよう、意見交換し、共通理解できるように努めている。
2 保育の在り方、幼児への対応 安全管理の徹底、幼児理解の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none">・カトリック精神に基づき、一人ひとりに愛を持って接し、子どものみと理解ができるよう、努力は惜しみなく行なっている。・子どもが自主的に活動できるよう、援助している。・縦割りクラス活動を通して、異年齢児との関わりを持つことで発達の違いを見据え、思いやりの心を育てている。
3 保育者としての資質 保育専門家としての能力、姿勢、責任等資質向上を図る。	<ul style="list-style-type: none">・教職員が、ひとつのチームであることを意識して、子どもたちのささやかな成長の発見と喜びを共有している。・保育後の振り返りの時間を持つことで、全園児の様子を把握している。・モンテッソーリ教育の芯を固めるため、教職員研修を年間 24 回行っている。

<p>4 保護者への対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども主体の考え方で、行事などの方向性が変革するなか、園の思いを保護者会・手紙などで発信しているが、まだ十分とは言えないので、情報の発信をいっそう充実させる。 ・問題がある時だけでなく、普段の様子を常に子どもの様子を保護者に伝える姿勢を保っていきたい。
<p>5 地域社会との連携 地域社会との関わり及び小学校との連携を図り、地域開放の努力をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進学先の小学校と、連絡を取り合ったり、地域の老人ホームを訪問したりしている。 ・園庭開放を行い、地域の方にも参加していただけるよう、回覧板・地域の掲示板など利用して情報を発信している。 さらに、開かれた幼稚園をめざして工夫していきたい。
<p>7 カトリック幼稚園の使命 カトリックの教えである「愛する」ことを伝えていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学院内研修・カトリック職員研修をとおして、職員一人ひとりが神の愛を感じ、信じる者となり、子どもたちに対しての言葉かけ・立ち居振る舞いすべてにおいて、愛を伝えていけるようにしている。
<p>8 環境について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・常に、整理・整頓・清潔を特に意識し、物的環境・人的環境を整えるよう努力している。

4 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

<p>保護者アンケートをもとに行った学校評価では良い評価をいただいた。 職員1人ひとりが、自己評価・学校評価の主旨を理解し、客観的な目で自らの教育、保育を振り返ることができたと思う。保護者の評価に甘んじることなく、今後も、さらに充実した保育実践ができるように、努力をしていきたい。</p> <p>今年度特に、子どもが自発的に、自主的に様々な活動ができるように働きかけた。普段の保育からも子どもたちの考え、意見を十分発揮できる場面をつくっていった。出来栄だけでなくその過程を知っていただくために。園からの発信をもっと充実したものにしなければいけないと感じる。</p>
--

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
「個」をよりよく見る	一人ひとりの子どもが、どんな時に、何に興味を示し、どれほどの理解があり、達成していくのかを観察する。 個人の記録をしっかりととり、見える形で発信していく。
子どもたちの満足度・達成感を深める	子どもたちが幼稚園で経験したことを、「たのしい!」「またしたい!」と思えることは、大切なこと。子どもたちの満足する内容・達成の度合いの違いを認めながら、寄り添う。
地域に開かれた園をめざして	老人ホームの訪問、地域の行事に参加など、また地域の方を幼稚園にお招きする機会などをもち、さらに開かれた幼稚園をめざしたい。 園庭開放・未就園児教室クラスを行う中で、子どもにとって望ましい経験ができるよう内容を考慮していく。

6 学校関係者の評価

全体について	全体的に前年に比べて数値が向上しているという点が評価できる。 また、教員一人ひとりの意識向上がアンケート結果に表れている点も評価したい。
保護者の評価について	一部の学年の保護者アンケートにおいて最高ランクである「評価4」の割合が減少している事は残念である。ただし、担任が新任である場合などには、こうした結果が見られる事も珍しくはない。問題は、教員個人のスキルに頼った教育をしてはいまいかと言う点である。 経験不足の教員に対しては、経験豊富な教員が十分な指導とサポートを行う等、園全体で教育活動を行う事が必要である。来年度はすべての学年が高い評価を得られるようにして頂きたい。
教員の自己評価について	行事等に注力するあまり、一人ひとりの園児に対して十分な時間が取れていないと感じているようである。画一的な活動だけでなく、個々に目を向けるのびのびと教育する事も必要ではないだろうか。 自然災害や不審者の侵入等、危機管理に対する意識が高くないように見受けられた。園児の安全に直結する事であるので、早急に改善して頂きたい。

7 財務状況

監査法人による監査により、適正な運営がなされていると認められている。

2013年度 賢明学院小学校 自己評価の結果の報告書

賢明学院小学校
校長 篠原康二

◇今年度に重点的に取り組む事が必要な目標

目 標	具体的内容
1：建学の精神を生きる	創立者が残した言葉を実践する。 月間目標の設定
2：心が育つ教育	宗教行事のメッセージを大切にする。 校長訓辞,つけものデーの充実。
3：授業力の向上	研究授業の実践と反省,教科会議の充実。
4：学級経営充実のための研究と実践	教員間のコミュニケーション力,児童への必要な支援を考える。 縦割り教育の実践
5：賢明プライドを持つ	上級生の役割と責任,マナー意識の向上,清掃活動の徹底。

◇目標に対する取組状況及び達成状況

目 標	達成状況
1：建学の精神を生きる	1学期には児童への呼びかけ,意識づけができていた。 2学期以降,挨拶などの基本的習慣の徹底に課題が残った。
2：心が育つ教育	学級活動や行事における相互協力といった点では一定の成果があった。
3：授業力の向上	二人の指導教官の招聘により教員の授業に対する意識が向上した。児童たちの授業に臨む姿勢に変化がでてきた。
4：学級経営充実のための研究と実践	児童の教師に対する信頼度という点においては,課題が残った。 各担任同士の協力,情報交換,話し合う場がより求められる。
5：賢明プライドを持つ。	賢明生としてのプライド意識が生まれつつあり,マナー意識等も向上しつつある。ただ、通学路におけるマナーや安全面の向上には更に工夫の必要性を感じる。

◇今後の改善方策

改善点	今後の改善方策
1：宗教教育の醸成	Monday Assembly「祈りの時間」の実施， 宗教科の内容を再検討（新しいカリキュラムの作成）
2：学級経営の研究と実践力の育成	月1回の学年主任会議の実施，研修会の実施。学校カウンセラーとの連携，不登校やいじめ問題の研究
3：学校行事，宿泊訓練の充実	行事委員会の開催。自発的な児童の活動を評価し，サポートする。
4：教師力の向上	カウンセリングマインドの養成，「いじめゼロをめざす予防教育」の実践。教科研究の充実と生き生きとした授業づくり
5：児童とのふれあい	子どもと過ごす時間を大切にする。特に休み時間での係わりを積極的に持ち，児童の様子をつぶさに観察する。

◇次年度の重点的目標

次年度の目標	具体的内容
1：心が育つ教育	「祈りを大切にする。」学校生活の基礎基本を学ぶ，友だちとの関係を大切にする。
2：学級活動の活性化	年間計画に基づいた活動。宗教科と担任との連携。
3：教師力の向上	情報端末を駆使した授業展開と研究。学級懇談会の充実。生活指導について学び
4：語学教育の充実	グローバル化に備えた英語力の強化，イマージョン教育の実践。

◇ 総 評

2012年度からスタートさせた「賢明教育近代化三年計画」も三年目に入る。特に，教育活動の内容をできるだけわかりやすく説明し，発信するという努力は少しずつ実ってきた感がある。しかし，保護者や児童からの更なる信頼や協力を得るためには，これからも努力と研鑽が求められる。学校評価の結果を真摯に受け止め，改善すべき課題を教員個々が共有し，学校全体の課題として改善策を講じていきたい。近年は時代の教育的ニーズを把握しスピーディーな対応が求められている。とりわけ，新しい情報教育やリタラシーの必要性が高まる中，教員の日々の学びと資質向上が益々求められている。

「愛される賢明」をめざし，教師と子どもたち一体となって楽しい学校づくりに励んでいきたい。そして，創立以来，教育理念として大切にされてきた国際性，世界といつも繋がった心をもつ子どもの育成に励んでいきたい。

2013年度 賢明学院中学高等学校 自己評価の結果の報告書

賢明学院中学高等学校

校長 南 登章生

◇今年度に重点的に取り組む事が必要な目標

目 標	具体的内容
1：カトリック教育精神のもと、「心の教育」の推進	宗教教育を通して、やさしい心、温かな心、他人を思いやる「愛の心」を育てる
2：生徒のための組織的な教育体制の構築	・賢明の不易を生かす新賢明を作り上げる意識と意欲の結集 ・生徒・同僚のため惜しみなく時間を費やせる意識と組織の構築
3：進路実績と進路保障	・模試データから成績の伸びを教育成果として示す ・大学進学結果を出し、希望進路保障する。
4：学習・授業を第一とし教科力のアップ	・プロとして分かる授業のための授業工夫の研鑽 ・生徒一人ひとりの学力を伸ばすための学習指導の実践力の向上
5：挨拶・しつけ・礼儀・マナー教育の強化	・教員が自ら模範となる指導姿勢の徹底 ・生徒指導における事前指導の遂行
6：地域・海外ボランティア活動などの推進	・地域清掃，募金活動指導 ・生徒会の自主活動の推進指導
7：募集活動の強化とレベルアップによる定員確保	・中学約100名，高校約220～230名 ・小中の内部進学増加

◇目標に対する取組状況及び達成状況

目 標	達成状況
1：カトリック教育理念のもと、「心の教育」の推進	90%以上の保護者の教育理念に対するご理解があり，教育の取り組みにご信頼とご賛同頂いている事に感謝している。
2：生徒のための組織的な教育体制の構築	教務・進路・総務・入試広報を中心に，生徒のための校務運営が機能的で円滑な組織化が進み，スピーディーで丁寧な処理がなされつつある。
3：進路実績と進路保障	新成績処理システムを導入し，懇談でも模試データによる特性を生かした進路指導に活用。昨年度を超える進学実績が出ている。
4：学習・授業を第一とし教科力のアップ	プロとしての分かる授業の取り組みの意識が向上し，生徒たちの授業理解度も上がり成績の伸びとなっている。
5：挨拶・しつけ・礼儀・マナー教育の強化	心の教育と基本的な生活習慣の徹底指導により，品性ある礼儀正しい生徒と評価を頂き，府から「心の再生運動推進」の褒賞を頂く。
6：地域・海外ボランティア活動などの推進	ほかへの温かな思いやりある心の指導から，地域の清掃活動や東北支援活動・募金など，粗食による支援活動も推進した。

7：募集活動の強化とレベルアップによる定員確保	中学90名うち内部より31名。高校253名。レベルアップの入試となった。
-------------------------	--------------------------------------

◇今後の改善方策

改善点	今後の改善方策
1：カトリック教育理念のもと、「心の教育」の推進	学院創立60周年を機に、さらなる100周年に向かって他者のために「祈り」「学び」「奉仕する」精神をより生かす教育活動を推進する。
2：生徒のための組織的な教育体制の構築	全教員のより一致した差のない教育指導の実践と組織的で有効的な任務の遂行に心掛け、生徒の可能性を伸ばす指導を確認する。
4：学習・授業を第一とし教科力のアップ 5：満足のいく進路保障	分かる授業のためのプロとしての教科指導に心掛け研鑽する。 「学びの教育改革」を推進し、学力アップに心掛け、生徒の特性を伸ばし満足のいく進路保障に努める。
6：挨拶・しつけ・礼儀・マナー教育の強化	地元で愛される品性ある生活習慣を身につけさせ、より礼儀正しい生徒の育成に努める。
7：地域・海外ボランティア活動などの推進	生徒会の自主的活動の指導強化と他者への、特に社会的に小さな人々に対し、温かな愛を育む指導をより徹底し日常生活におけるボランティア意識の啓蒙を推進する。
8：募集活動の強化とレベルアップによる定員確保	入学者のレベルアップと定員確保のため、渉外活動の強化・プレテスト・小規模の広報の新広報の手法も検討する。

◇次年度の重点的目標

次年度の目標	具体的内容
1：カトリック精神に基づく、宗教教育による「心の教育」推進	創立60周年の年に当たり、創立者マリー・リヴィエに立ち返り不易を見つめ、新教育を構築する意識で任務に専心する。
2：生徒のための組織的な新教育体制での円滑な実践と推進	模試データをもとに、教務進路の新教育システムによる生徒懇談に利用する。生徒・保護者との連携を図り徹底した指導を行う。
3：学習・授業を第一とした教科力の向上と授業工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・全生徒の進路を保障するため学業と進路指導の取り組み強化 ・2013年度を上回る国公立大10名、関関同立大40名、産近甲龍大60名の合格を目標に授業・補講・セミナー・放課後補習や夏季合宿など自主学習の意欲ある取り組みを推進。 ・英語教育のさらなる充実と海外留学の推進により、国際人の育成。学内留学（ネイティブ・課外）のいっそうの充実。
4：進路保障と進路実績	
5：挨拶・しつけ・礼儀・マナー教育の実践と強化	生徒会の自主的活動の強化指導を図り、他への愛の指導と共にやさしさや温かさを培う指導を、礼儀やマナー指導の実践から、日常習慣による挨拶指導などをより推進する。
6：生徒会活動の自主性指導	
7：募集活動強化による定員の確保とレベルアップ	教育内容の広報と教育改革の進捗状況の報告など、募集渉外の集客力アップのための方法の検討しよりよい実践に努める。

学校関係者評価の結果の報告書

2013年度学校関係者評価の概要

2013年度学校評価委員会において、学院が行った自己評価は概ね適正に行われているとの評価を頂いた。評価の過程の中で頂いた今後の改善点等、主な意見は下記の通りである。なお、委員会を欠席した委員については、資料及び議事録を送付して後日意見を徴収している。

記

I 総 評

調査方法について	評価基準が4段階評価に統一され、比較し易くなった。アンケートの項目が統一された事も結果を比較する上で有意である。
調査結果の評価について	過去3年間のアンケート結果が比較できるように工夫されており、前年に比べて非常にわかり易いデータが提示されている。その結果として、学院が高い評価を受けている点や、問題とすべき点が一層明確になったとすることができよう。来年度以降は、明確となった課題に対して実行した対策とその効果について検証し、さらなる改善に繋げるための努力をする事に注力して頂きたい。
その他について	今年度の学校評価委員会の活動は、新年度を迎える前にすべての作業を終了し、4月には学校評価の結果を外部に対して報告できる体制を整えることができた。これは学校評価を活用して学校教育をいっそう良いものにしようとする学院の強い決意のあらわれであり、高く評価したい。

Ⅱ 幼稚園

<自己評価について>

全体について	<p>全体的に前年に比べて数値が向上しているという点が評価できる。</p> <p>また、教員一人ひとりの意識向上がアンケート結果に表れている点も評価したい。</p>
保護者の評価について	<p>一部の学年の保護者アンケートにおいて最高ランクである「評価4」の割合が減少している事は残念である。ただし、担任が新任である場合などには、こうした結果が見られる事も珍しくはない。問題は、教員個人のスキルに頼った教育をしてはいまいかと言う点である。</p> <p>経験不足の教員に対しては、経験豊富な教員が十分な指導とサポートを行う等、園全体で教育活動を行う事が必要である。来年度はすべての学年が高い評価を得られるようにして頂きたい。</p>
教員の自己評価について	<p>行事等に注力するあまり、一人ひとりの園児に対して十分な時間が取れていないと感じているようである。画一的な活動だけでなく、個々に目を向けるのびのびと教育する事も必要ではないだろうか。</p> <p>自然災害や不審者の侵入等、危機管理に対する意識が高くないように見受けられた。園児の安全に直結する事であるので、早急に改善して頂きたい。</p>

<学校関係者評価を受けての改善策>

一人ひとりの子どもに注意を払うには、保護者との連携が不可欠である。日頃のコミュニケーションの機会を増やしたり、保護者が家庭での読や学習に効果的に取り組めるような勉強会を開いたりする事で、園の外でも一人ひとりを見守る事が出来る。また、研修によって個々の教員のスキルアップを図る事も重要である。PDCA サイクルに沿って成果の上がる研修を実施していきたい。

危機管理については、危機管理マニュアルの内容を徹底するとともに、定期的な訓練を行う事によって非常時に落ち着いて行動できるように努めたい。また、携帯電話等の端末を利用した緊急メール等のシステム整備を早急に進めたい。

Ⅲ 小 学 校

<自己評価について>

児童・保護者評価について	<p>創立者マリーリヴィエに対する理解度はもう少し高いかと期待していたが、期待ほどではなかった。創立者の崇高な理念と、それを語るに相応しい生涯について、全ての生徒と保護者が理解していなければ、教育の効果は上がらない。まずは、人間教育の場として、創立者とキリスト教の理念を児童にしっかりと伝わるように工夫するとともに、保護者にも理解して頂くための機会を一層充実させる事が重要である。</p> <p>授業に対してマイナスの評価をしている生徒・保護者も見受けられたが、教員の授業力・指導力と言うテクニカルな問題だけではなく、むしろ学校の理念に共感してもらえるかどうかの方が重要なのではないかと思われた。受験のみに偏った授業展開ではなく、全ての科目を大切にすることによって、感性や情緒、価値観など将来に生きる力を培い、素晴らしい人間性と知性を兼ね備えた児童を育てるという学校の授業への考え方を保護者に発信していくことが重要である。</p>
教員の自己評価について	<p>自らの仕事に「誇りに思っている」と言う回答が100%でなかった事が残念である。この指標が100%に達してはじめて保護者や児童からの評価が向上するはずである。全教職員が誇りを持って教育に携われる学校づくりを全員一丸となって推進していきたい。</p>

<学校関係者評価を受けての改善策>

キリスト教の精神に基づく教育及び創立者マリーリヴィエの精神に基づく教育は、学院の根幹である。しかしながら、高学年になると中学校受験を意識して受験科目以外を敬遠しがちになり、宗教等の受験科目以外の教科・科目を軽んじる傾向が保護者・児童に見受けられる。また、残念な事に、教員の中にもこうした受験偏重の考えを持つ者が若干ではあるが存在するのが実情である。受験に対応できる学力に養成は必要であり、決して疎かにするものではないが、バランスを欠いた教育は児童たちの人格形成の上で負の財となると考えている。本学院では宗教的教育を中心にした人間教育を重要な柱としている。したがって入学時からの宗教教育を構築する事も重要である。小さな子どもでもわかり易いように、漫画やビデオ等、視覚にうったえるツールを作成し、それを使ったキリスト教やマリーリヴィエの理念を学習できるような施策についても検討していく。

IV 中学・高等学校

<自己評価について>

生徒評価について	中学3年生および高校3年生の進路に対する意識が向上しているのは好ましい点である。しかし、この学年が進路への意識が高いのは当然であり、1・2年生の将来の進路に対する意識がそれほど高くないのが問題である。進路選択は生徒の将来に直結する問題であり、早急な対策が望まれる。
保護者評価について	一部の項目で最低評価である「評価1」をつけた保護者が見られた。例え一部とは言え、このような評価を受けた事は、数ある私立学校の中から本校を選択し、生徒を託して下さった保護者に対しての背信行為であり、猛省とともに経緯を詳細に調査し信頼される学校づくりに尽力してほしい。
教員評価について	アンケートの各評価項目に「評価1」や「評価2」という低い評価をつけている教員が散見される。教員がすべての項目に最高評価である「評価4」をつけたとしても、生徒や保護者の評価はそれを下回るのが常である。ましてや教員評価がこの状態では、生徒や保護者からの高い評価は望めない。教員一人ひとりの意識を改善し、誇りと自覚をもって教育に取り組んでいただく事を切望する。

<学校関係者評価をうけての改善策>

生徒や保護者の一部に低評価が見られた事の根幹は、教員の自己に対する低評価に起因する。よって、研修や勉強会を通じて教員の意識を改革する事から改善をすすめていきたい。

ただし、教員は日々の様々な業務に忙殺されているので、非効率な施策は逆効果になる恐れがある。短時間で効果の上がるプログラムを吟味して実行する事に留意して改善をすすめていきたい。

以上